



筑波大学附属図書館ボランティア広報紙

第17号

行ってみよう！筑波大学

目 次

体育・芸術図書館	海津 裕子	1
図書館情報学図書館見学記	飯島 倍雄	2
筑波大学ギャラリー見学	横井 清和	4
「ノギセン」いかがですか？	太田恵理子	6
筑波大学附属図書館企画展 「古地図の世界ー世界図とその版木ー」	廣田 紀代	7
バイオ e カフェ	松永 弘子	8
「天上大風」まるごと初体験	飯田ふじ子	9
筑波大学学園祭 『雙峰祭』 2007.10.6-8	牧 真理子	10

編集にあたって

筑波大学附属図書館ボランティアは、その活動の一環として広報紙「うたがき」を発行しておりますが、本号「うたがき」第17号は「行ってみよう！筑波大学」として編集しました。

私たちボランティアは、図書館でのボランティア活動を通して筑波大学のさまざまな施設や行事に参加する機会がありますが、筑波大学は地域に開かれた大学として一般の人でも図書館をはじめ多くの施設や行事への参加が可能になっております。

そこで本号では、これらのうち一般の人に利用できる施設や行事について、私たちボランティアが手分けして取材して纏めてみました。これを機会に大学に足を運んでもらい、筑波大学が地域に開かれていることを実体験いただければ幸いです。

図書館の中でボランティアとして活動することだけでなく、そこからさまざまな刺激を受け、知的好奇心を開花させていくのも、附属図書館ボランティアの魅力のひとつです。ご興味をもたれた方々のボランティアへの参加を歓迎します。

また、本号から筑波大学電子図書館ウェブサイトのボランティアのページに掲載されることになりましたので、私たちボランティアの活動をより広く多くの皆さんに知ってもらい、ご理解いただければと願っています。

広報部員一同

体育・芸術図書館

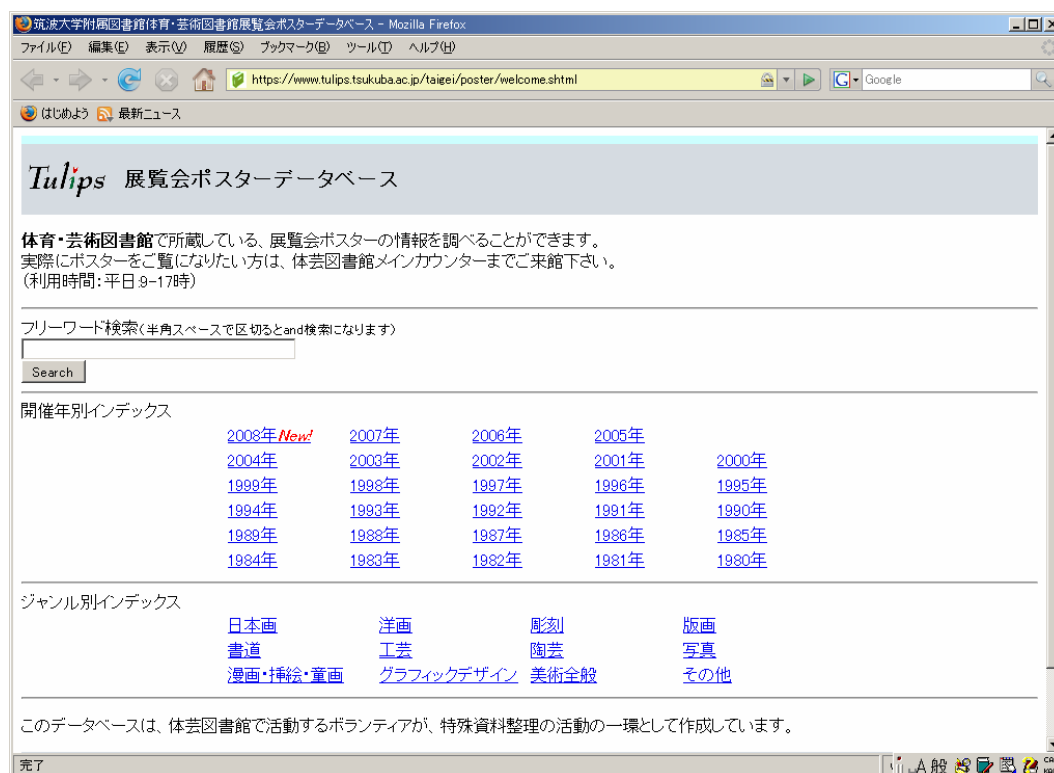
海津裕子

筑波大学附属中央図書館から遊歩道を南へ 10 分程歩き、体育・芸術専門学群中央棟の吹き抜けを通り過ぎると体育・芸術図書館があります。4 階建てのこの図書館は附属図書館の中で最も古く、1974 年に開館しました。主に体育科学・芸術関係の約 23 万冊の図書、2,500 タイトルの雑誌を所蔵しています。遊歩道に面した 2 階には貸出・返却手続きをするメインカウンターがあり、参考図書と視聴覚資料が置かれています。3 階に芸術関係の図書、4 階に体育科学関係の図書、1 階に雑誌が全面開架方式で並んでいます。

体育・芸術図書館の特色ある蔵書として、体育科学関係では、東京体育専門学校の旧蔵書と、1964 年に開催された東京オリンピック関係資料が保存されています。芸術関係では、全国の美術館・博物館から寄贈された 5,000 冊以上の展覧会目録が 3 階の大閲覧室に並び、美術館・博物館のニューズレターや展覧会のポスターが 1 階にあります。学外の方も手続きをすればこのような資料を自由に閲覧することができます。

体育・芸術図書館では、ボランティアが、展覧会ポスターの掲示とデータベース作成の活動をしています。これから開催される美術展などのポスターを、入口に入ってすぐ左手のラウンジに掲示し、会期が終わったポスターははずして開催年別に保存します。展覧会ポスターデータベースは、体育・芸術図書館所蔵の 1980 年以降のポスター 1 枚 1 枚について、タイトル、ジャンル、会場、会期、掲載図版、展覧会目録などの情報をまとめたもので、フリーワード検索も可能です。筑波大学電子図書館の下記の URL から公開されています。

<https://www.tulips.tsukuba.ac.jp/taigei/poster/welcome.shtml>



筑波大学附属体育・芸術図書館 展覧会ポスターデータベースのページ

図書館情報学図書館見学記

飯島倍雄

私は、春日キャンパスにある筑波大学図書館情報学図書館（以下本図書館と略す）を訪問した。もう 20 年以上前になるだろうか、まだ、つくば市に市立図書館が無かった頃、この図書館の公開図書室に家族と本を借りに行っていたことを思い出して懐かしさが湧いてくる。この公開図書室は、地域社会の文化の向上と、本学における教育研究の場として昭和 56 年 6 月に附属図書館に附置された特殊施設であり、地域の人々のために多大な貢献をしたが、平成 2 年つくば市立中央図書館が開館し、その役目を終えた。現在でも公開図書室当時の公開図書（教養書および児童書）が置かれており、思わず書架の本に手が伸びそうである。

（1）本図書館の歴史

本図書館は、昭和 56 年 1 月に竣工しているが、二つの特性を持っていた。

即ち、

①図書館情報学の教育・研究のための資料を内外にわたって広く選択・収集すること

②機能面で他の大学図書館の範になること

であった。現在筑波大学と統合（2002 年）されているが、図書館情報大学建学の精神が、脈々と受け継がれていることが随所に見られる。

本図書館 2 階階段踊り場には、在学中に学生によって作られた、帝国図書館模型とアメリカ議会図書館（The US Library of Congress）の忠実な模型が展示されているが、後者は一人の学生が 2 年の歳月をかけ完成させたもので、学生たちの熱き思いが伝わってくる。さらに、デジタルメディア部門の常設展「記録メディアの発達と図書館の変貌」も、この図書館が目指しているものを私たちに教えてくれる。

（2）概況と特色

本図書館は、総面積 2,964 m²、閲覧スペース 2,373 m²、座席数 257 席、蔵書数約 23 万冊の図書館である。規模としてはさして大きくはないが、図書館職員養成を目的として創られた歴史があるだけに、施設、書架、閲覧室等の各所に工夫があり、更に、図書館内が静かで使いやすさが感じられる。

例えば、工夫した本棚があり資料が探し易いこと、明るく窓の外は緑が多く目に優しいこと、図書館情報学に関する本や雑誌が充実していること、児童図書室が置かれていることなどである。

本図書館は教育・研究活動の基盤的施設として多様な機能を果たすものであることから建物施設の中心に配置され、管理棟、研究棟、および校舎棟と有機的に結合・一体化した図書館となっている。

また、教員や大学院生は、専用のカードを使用し開館前・閉館後 30 分を除く終日図書館を利用できるようになっている。

次に、各階の特色と本図書館ならではの主なコレクションを示すと、次の通りである。

建物が講義棟との複合施設であるためブックポストが、図書館外に一つ、館内に一つ置かれており、何時でも返却できるように工夫されている。1階エントランスには、学生用指定図書・教員著作図書や新着本コーナーがあり、貸出もできる。

1階には、新聞、全分野の総合目録・全国書誌・百科事典・児童書・マイクロ資料・全分野の雑誌、総記と電気工学分野の図書が配架されている。

また、海外の出版目録等や実習用の児童図書室があるのも、この図書館ならではのものである。この外、雑誌棚がタイトルごとに斜めに置けるようになっており、雑誌の表紙が見やすく工夫されている。

2階には人文、社会、自然分野の図書や地図・参考図書が配架されている。この外、大学及び公共図書館の図書館報が置かれているのも本図書館ならではの資料である。また、閲覧席も静かでゆったりとして、読書に疲れた目に優しい緑が窓の外に広がる。

大型本の棚もコンパクトで横積み冊数も少なく使い易い。

・本図書館ならではのコレクション

この図書館ならではのコレクションも多いが、私はこのうち次の2件に興味をもったので紹介したい。

①「印刷、製本、出版関係コレクション、1764-1982」31点 各主題分類

古版本、グーテンベルグ、私家版、印刷、紙、製本、装丁、蔵書票、筆跡等についての英語、フランス語、イタリア語による研究書等を集めたものであり、初期印刷技術および発達史を研究する上で重要な資料である。

②”Encyclopedie methodique, ou, par ordre de matieres “ Chez Panckoucke (パンクック「系統的百科全書」) 全200冊 貴重書庫

本書はディドロ・ダランベールの「百科全書」の系譜に属する百科事典で、出版者パンクックは「百科全書」の補遺版をディドロの承認を得ずにつくったが、この経験をいかして、アルファベット順を体系順に再構成し、本体と補遺に最新の知識を加えて、50年の歳月をかけてこの画期的な百科事典をつくりあげたという。

また、ブリタニカ百科事典は初版から各版を保管しているとのことである。

以下のコレクション等もあるが、詳しくは、本図書館のWebサイトを参照されたい。

- 「各図書館の館報（大学、公共図書館等の館報を所蔵）」2階踊り場
- 「アメリカ図書館学、書誌学基本文献集」464点 652冊 各主題分類
- 「図書館情報学関係学位論文集成 1938～」手動式集密書架
- 「NTIS 研究レポート：図書館情報学編、1968～」マイクロ書架

筑波大学ギャラリー見学

月曜 午前 横井清和

1月中旬の木曜日の午後2時、風が冷たい中を一人で見学に行った。大学会館前のバス停で案内板を見ると、場所は見当がつくが、入口がわからない。右手の坂を上り大学会館に向うべきか左手の交流会館に入るか迷った。結局近いほうの交流会館に入った。入ったもののどっちに行けばいいか判らず、受付の女性に尋ねた。ギャラリーは大学会館入口に入って直ぐ左手だった。「外に出て回らなくても中を通って行けますよ」とのことばをたよりに、室内をきょろきょろしながら歩き、ギャラリーに着いた。

大学会館の中はそのときは行事がなかったためか、薄暗かった。薄暗い中をきょろきょろしながら歩いて来たので、ギャラリーの照明が明るくて、ほっとした気持ちになった。受付には係の人が美術館の警備の人のような感じで座っていた。係の人と声を交わしたり、名簿に記入することなく、真っ直ぐに展示室に入れる。

展示室は石井コレクションの部屋だけがガラスを多く使って別の部屋になっているが、それ以外は間仕切りだけで、全体が見渡せるように作られている。あまり大きくないこともあって、親しみやすい感じがした。

入ってすぐの展示は「筑波大学への誘い」で、キャンパスの航空写真や施設案内図、筑波大学の前身の多くの学校との関係を示した系統図等である。これは流し見て、つぎの体育・スポーツ展示のコーナーに向う。写真だけでなく、オリンピックのメダルや運動用具も展示されていた。一つの大学でこれだけの歴史的な業績を上げているのはたいへんすばらしい。金メダルや銀・銅メダルが沢山あり、記憶に残っているオリンピック選手の写真も沢山ある。オリンピック以外にもサッカー等の有名選手の写真も数々あり、楽しめる。

マラソンの金栗選手の練習用のたびが展示されており、これを見ると、高校時代に自分が使ったたび(靴?)を思い出す。親指が分かれていて、底はゴム製であった。金栗選手のたびは底も布のように感じたが、遠い昔は砂利道だったはずで、走ると足の裏が痛くなったのではないだろうか。

次ぎのコーナーはノーベル賞受賞者の展示である。江崎玲於奈先生は1992年から6年間に渡って筑波大学の学長を務めた方で、1973年にトンネルダイオード発見の業績でノーベル物理学賞を受賞した。展示を詳しく見てゆくとトンネルと名付けられた理由も説明してある。白川秀樹先生さんは1979年から2000年まで筑波大学に勤務され、導電性高分子の発見とその後の開発の業績により2000年にノーベル化学賞を受賞された。江崎さんの展示と同様、導電性プラスチックの説明が添えられている。お二人とも、受賞対象の研究は筑波大に関わる前に行なったものであるが、このような方々が筑波大で活躍されたことは大学としての誇りであろう。

朝永振一郎先生は東京文理科大と東京教育大に1941年から1969年まで勤められ、56年から61年まで東京教育大学の学長の職にあった。1965年に理論物理学の研究でノーベル物理学賞を受賞した。展示室に置かれた机は木製のどっしりしたもので、白川先生のスチール製の我々が良く使う机とはかなり違う。しかし、受賞対象となった「くりこみ理論」を研究していた当時は戦後の非常に貧しい時代であり、研究室も非常に粗末であったとの説明もある。お三方の展示とも科学に興味がある人ならばじっくり時間をかけても良いであろう。

お終いは筑波大学所蔵石井コレクション展示室である。2005年に石井氏が筑波大学に寄贈した絵画・版画や陶磁器 86 点の一部を展示してある。美術館と同じように展示されている。美術にはうといので、きれいな作品をただ眺めたただけだが、詳しい人には貴重なものである。

このギャラリーの展示の目的として地域の人々への貢献もあげられており、筑波大関係者だけでなく、地元のお客が親しめる展示になっている。ざっと見るだけなら30分で済んでしまうので、ここだけでなく、別の見学と組み合わせたり、用事で大学に来たついでに立ち寄るにはお薦めの場所である。オープンキャンパスで来る高校生に PR する最適な展示であるが、大勢が押し寄せ、ベルトコンベアーに載せられたように見て回ると良さがあまり理解されないような気がする。インターネットにも詳しい説明が載っており、これを見るには検索用語として「筑波大学ギャラリー」と打ち込めばすぐに出てくる。

月曜と年末年始は閉館であり、これ以外の9：00～17：00に開かれている。筑波大学グッズを売っているお土産屋（写真）さんもギャラリーを出て、左奥にあるので立ち寄ってみるのが良いでしょう。



ギャラリー入り口



ギャラリーショップ

「ノギセン」、いかがですか？

太田恵理子

フルーツトマト、ミニトマト、サラダリーフに「筑波大学コロッケ」！！に紫さつまいも。とある月曜日にノギセンでゲットした食品たちです。ご存知のかたもいらっしゃると思いますが、農林技術センター略して「ノギセン」の生産品販売は時に珍しい農産物もあり、折にふれてチェックしなければならぬ筑波大学のマストアイテムのひとつです。

図書館から西ループに沿って北上していくと両脇の並木がカエデからスズカケノキに変わります。そのすずかけ通りの途中の左側に位置するのがこのセンターです。看板にしたがって駐車場に入っていくと目の前に見えるのは広々とした放牧場と点在する牛くんたち、中に一頭だけ水牛がいるのもいかにも研究施設という感じです。南方の水牛にはちょっと寒そうではありますがこの辺りではなかなかお目にかかることの難しい水牛くんにごあいさつをしつつ、センター本館にいくと、季節によりますが、あるときは沢山のブルーベリー、またあるときは、なすやきゅうりの夏野菜、とうもろこしに梨と、何でもあるというのではないのですが、季節の野菜、時には鉢植えまでもが販売されています。個人的に特にオススメはブルーベリーです。1977年、福島正幸先生によりノギセンに植えられた20本のブルーベリーが今のブルーベリーシティつくばの嚆矢となったこともノギセン豆知識のひとつといえるでしょうか？

「農林学をはじめとして様々な学問分野にかかわる実験・実習教育ならびに自然科学、社会科学の研究に供するとともにわが国内外の農林技術の発展に寄与することを目的として」いるセンターではまた公開講座も行っており、2008年度もチーズ作りなどの講座を一般の人々を対象に行う予定のようです。ご興味のある方はホームページ (<http://www.nourin.tsukuba.ac.jp/>) などでご確認下さい。また農産物の販売は、毎週月・水・金の午後12:30から3:00に農林技術センター本館で、(原則として)第一・第三水曜日には附属病院で出張販売をしているということです。詳しい販売情報については、農林技術センターの農産物等販売情報ホームページ (<http://www.nourin.tsukuba.ac.jp/~mark/nourin/>) など提供されています。百聞は一見にしかず、一度お出かけしてみたいはいかが？四季折々に美しいループの自然をめでながら、散歩気分で行くのもおすすめです。



筑波大学コロッケ (冷凍) (5個 350円なり)



筑波大学コロッケサラダリーフ添え

筑波大学附属図書館企画展 「古地図の世界 ―世界図とその版木―」

廣田紀代

平成19年10月1日から26日まで附属図書館企画展「古地図の世界 ―世界図とその版木―」が開催されました。この企画展は、明治維新直前の安政2年に発行された「重訂万国全図」を、明治4年大学南校（後の東京大学）が改訂した日本を代表する世界図の完全な版木のセット（16枚1組）が、大学の附属図書館に寄贈されたことを記念して行われました。このような版木が現在までそのままの形で伝えられた事は、大変珍しく貴重な事だそうです。そこで、この版木と、筑波大学が従来から所蔵している、諸種の世界図などを一緒にして、古代から江戸時代末までの日本人の世界の見方（世界観）の変遷という点でまとめて、展覧することにしたのだそうです。

この展示に関連して、人文社会科学部准教授大塚秀明先生の講演会がありました。

弥生時代・古墳時代の日本に住む一般の人々がどのような世界を思い描いていたかは解りませんが、弥生時代の人々は中国から渡ってきた人が多いという事ですから、なんとなく昔の記憶などがある程度は残っていたのではないかという気がします。勿論、支配階級などは当時でも中国との行き来があったのですから、海の遠い彼方の大きな土地・国のことは知っていたでしょう。印度から中国を通して仏教が伝わってきた古代には、世界の中央に須弥山が聳え、その東西南北に4大洲、東勝神洲、西牛賀洲、南瞻部洲、北俱盧洲があるという仏教的世界観が行き渡り、天竺は西に、中国は南に属していたという事のように、それは孫悟空の活躍する西遊記の世界でもありました。

日本最初の全国図（日本図）は奈良時代の僧・行基が作ったと言われている「行基図」です。山城国を中心に街道を描き、団子状の国々を連ねて、国々の位置関係を示しましたが、形は正確ではありませんでした。

戦国時代以後、日本に西洋人がやってきて、鉄砲を伝え、キリスト教を伝道するようになると、ヨーロッパ系の世界図と地理学知識が伝来しました。これによって世界には唐・天竺以外に南蛮などという土地が遠方にある事を庶民の末々まで知った事でしょう。徳川家康など支配層は唐・天竺などより遙かに遠い国からやってきた西洋人から、世界地図等を献上されて、かなり詳しい世界観を持つようになっていました。狭い窓ですが長崎でのオランダ人などとの接触を通じて、地図を含めて世界の最新情報に支配層が接していたのです。長屋の熊さん八つつあんなど庶民も、口では世界を唐・天竺の果てまでもなどと言いつつも、もっと広い世界を意識していたでしょう。キリシタン改めなどのあった時代です。

長崎を通じて遥かな西方を意識していた支配階級は、北方でのロシアの動き等に触発されて、蝦夷地の探検や地図の作成を行わせました。文化7年発行の「新訂万国全図」は間宮林蔵による間宮海峡の発見など、当時の最新知識を盛り込んだ世界屈指の地図でありました。これは安政2年に改訂され、さらに明治4年「重訂万国全図」は大学南校によって再び改訂されました。この地図の版木が筑波大学の所蔵となったのです。

この講演会はボランティアを対象としての判りやすい説明会でした。これに参加させていただき、古い時代の世界観の一端に触れられ、また限られた情報しかない江戸時代に、間宮林蔵の行ったような探検を行わせ、驚くべき正確さを持つ地図をこの時代に作成した徳川幕府の慧眼に心から驚嘆しました。

バイオ e カフェ

松永弘子

ロンドンでは、時代を代表する科学者が、一般の人向けにわかりやすく話をする「金曜講話」が180年以上続いているそうです。1825年に物理学者のファラデーが始めたとか。このような、科学をやさしく語り、社会に根付かせようという、英国の伝統から生まれた「サイエンス・カフェ」が、いま日本全国に広がっています。

科学に関する話題を講義室や研究室といったかたいところではなく、コーヒーを片手に気軽に語り合おうという試みです。ここ筑波大学でも「サイエンス・カフェ」のバイオ版、「バイオ e カフェ」が概ね月一回、年間10回程度開かれているのをご存知ですか？ 生命（バイオ）環境（e）科学研究科のカフェとして2006年にはじまり、今年4月で2周年、21回目を迎えました。小野道之准教授を中心に院生、学部学生のボランティアで運営され、以前は学内喫茶「リコルド」で、最近は総合交流会館で開かれています。ループ道路から見えるガラス張りの建物です。

予約なしで、18時過ぎに着くと、受付で100円を支払い、説明資料をいただきます。こんな少額でよろしいのかと毎回恐縮します。それから居心地の良さそうな席を確保。「飲み物とパンを用意してありますから、ご自由に飲食ください。」と声がかかるので、お腹のすいている時はサンドウィッチ（バーガーの時も）とコーヒーを、そうでない時は飲み物だけをいただいてほっと一息つきます。会場は学生が多くて若やいでいます。18時20分、学内サークルの音楽演奏が始まります。真摯な演奏を聴きながら、遠い昔の学生気分になること10分くらい、気分がほぐれたところでメインイベントの始まりです。毎回、一流の先生方、研究所の職員方がわかりやすく、御自分の専門の話をしてくださいます。話は1時間強、その後質疑応答、意見交換があり、19時50分前後に閉会です。

根っから文系の私には、いくら“やさしい科学”でも十分には理解できません。が、ここではレポートを提出する必要もなく、試験のことを考えなくていい、まして単位取得など関係ない。リラックスして科学を知る喜びを味わえます。気軽に参加してみませんか。

最近の講演から

- 第20回
「食品添加物って何？」
高野靖氏 食品添加物協会
- 第21回
「バイオマス燃料の現状と日本での展開」
松村正利博士 筑波大学名誉教授
- 第22回
「植物の“かたち”をつくる細胞壁～新農業に向けた細胞利用」
岩井宏暁博士 筑波大学講師



「天上大風」 まるごと初体験

飯田ふじ子

2007年9月23日13時から17時半までの約4時間半、初めて「天上大風」を体験してきました。「天上大風」とは、筑波大学の日本伝統文化系課外活動サークルが共催となり、春（4月）と秋（9月）に開学記念館の屋外で行っているイベントで、2001年秋から開催され、今回で13回目とのこと。この名前の由来は、江戸時代後期越後の歌人でもあった僧、良寛の逸話にもとづいているそうです。近所の子供たちに凧がうまく上げられないからとせがまれて、「高く高く大空を飛べるように」との想いをこめ、凧に「天上大風」と書いたところ、凧はみるみる空高く上がっていった。この話の凧のように、大空に舞い上がるような大きなイベントになるようにと名づけられたとのこと。

まずトップを飾ったのが、ときめき太鼓塾。一言に太鼓と言っても色々種類があって、それぞれの鳴り物によって音や調子が違うことに、改めて気づかされました。次に、鹿島神流武道部。こちらは約400年前から鹿島神宮に継承されてきた古流武術です。剣術や柔術の他に杖（この日は披露せず）や薙刀、懐剣など色々な武器（木刀）を使う総合的なもので、練習にはOBや外国人の方も参加しているため、さまざまな交流が出来るとのことでした。会場入り口にて、無料配布でいただいたお茶で喉をうるおした頃、それまでもっていた天気が崩れて雨が降ってきました。邦楽部の演奏は、急遽屋内で行われることに。今回は、尺八、琴（生田流、山田流）のみで、二胡、三味線の演奏はありませんでした。琴の支度（調律）が出来るまで、簡単なQ&Aコーナーの場が設けられていたのがナイスでした。尺八には色々な寸法のものがあり、二尺のもの、その名の通り一尺八寸から一尺三寸まで。短くなっていくごとに音が高くなっていくとのこと。ト리는、津軽三味線倶楽部無弦塾。総勢80数名という大人数の部員の熱気が伝わってきました。又、進行も手慣れていて、三味線演奏だけでなく、民謡や太鼓、Jポップの歌や踊りなど、盛りだくさんのプログラムでした。何より驚かされたのが、一人ひとりの発声の良さ。各人の練習量の多さを感じました。そのあと30分ほど各楽器の体験コーナーとなり、外国人の方などが興味津々で楽器に触れていました。そして、フィナーレ。津軽三味線、琴、尺八、和太鼓による、主にJポップの曲のコラボレーション演奏です。書道部の部員さんたちが曲に合わせて、天上大風にちなんだ文字を四枚の大きな紙面に書き込んでいく、見ごたえのあるパフォーマンスも行われました。

会場では池坊華道部の作品に続いて、茶室では茶道部「和敬清寂社」のお茶会（席料一人300円）が開かれ、その茶室の続き部屋に書道部の作品が展示されており、ひとつのアプローチ（道筋）が出来ていて、見ることを存分に楽しむ事が出来ました。

学生の皆さんが真摯に熱意をもって練習にうちこんできた事が、充分過ぎるほど伝わってきたこの4時間半でした。ワクワクした高揚感をひきずりながら、牛乳パックを再利用した和風のしおり（一見和紙！）をお土産に、会場をあとにしました。今回は、是非家族と一緒に参加しようと心に決めて、家路に着きました。

日本百名山としても名高い、二つの峰を持つ筑波山にちなんで名づけられた筑波大学の学園祭『雙峰祭(そうほうさい)』。

33回目となる今年は10月6日(土)～8日(月)の三連休に行なわれた。私は7日に附属図書館の特別展“古地図の世界 ー世界図とその版木ー”の講演会を聴くため中央図書館へ行ったのだが、館内においても聞こえてくる賑やかな音につられ、講演会後ちょっと覗いてみることにした。二十ウン年前の学生時代を思い出しつつ、しかしもはや学園祭などには場違いなオバサンひとりで・・・。カップルや中高

校生、時折それに交じる家族連れの中、通り沿いのところ狭しと並んでいるさまざまな模擬店を横目で見ながら歩いていると、松見池の辺りに設けられたステージ上ではアカペラサークルのライブの真っ最中。そのプロ顔負けのハーモニーに聞き入るうちに自分も若かりし頃、学園祭のフォーク喫茶でギター片手に唄ったことを思い出した。筑波大では？と探してみると、つくばフォーク村というライブハウスがあった。ちょうどバンドの部の時間帯だったようで、カーテンで塞がれた部屋の中から聞こえてくるギンギンのハードロックのギターフレーズにはさすがのオバサンもたじろいでしまい、中に入るのは断念した。

今年の雙峰祭のテーマは“『新』筑波世代”。つくばエクスプレスの開通などで進化しつつあるつくば市、そして筑波大学でも学群・学類再編が行われ、新たな一步を踏み出したことから、今まさに自分たちが新しいつくばを創っていく『新』筑波世代なのだというのがこめられているようだ。学園祭実行委員会が発行したパンフレットを見ると、筑波大学前学長である北原先生やロボットスーツ『HAL』を開発された山海先生の講演会、受験生向けの模擬講義などの受験生応援企画、筑波大学発ベンチャー企業とのディスカッションなどの本部企画や、研究成果の発表を目的とした学術研究企画、地方色・国際色豊かな調理企画、歌や演奏、踊りなどさまざまなパフォーマンスで会場を賑わすステージ企画など400余りの盛りだくさんの企画であふれている。特に今年は例年よりも多くの学術研究企画が出され、筑波大学の学術的な面をより感じられるものとなったようだ。結構アカデミックな要素もあるんだなど、学園祭イコールお祭り騒ぎだった自分の認識が今回随分塗りかえられた。これは筑波大学ならではなのか、今の傾向なのか…？それはともかくフォーク村に足を踏み入れられなかったのが少々心残りなので来年は勇気を出して再度挑戦(?)してみようと思う。



マスコットキャラクター
「しじみ」



「行ってみよう!筑波大学」 関連地図



開学記念館



大学会館



農林技術センター



松見上池



体芸図書館

図書館ボランティアについて

図書館ボランティア

筑波大学は開かれた大学として地域社会との融和を図っております。その努力の一つとして 1995 年 6 月 1 日には全国の国立大学に先駆けて図書館ボランティア制度を発足させています。

図書館ボランティアはつくば市およびその周辺に住む家庭の主婦、定年退職者などから選ばれており、現在約 50 名近くの図書館ボランティアが活動しています。いずれも生涯学習に大きな関心を持ち、ボランティア活動に熱心であり、豊かな人生経験と教養を備えた人々であります。図書館ボランティアはその活動を通じて、開かれた大学としてのイメージを高め、図書館サービスの向上に、地域社会との融和に貢献しております。

図書館ボランティアはおもに中央図書館で活動し、2階・4階ボランティアカウンターを定位置としております。

その主な活動は：

- 1) 図書館総合案内
館内窓口案内、資料配置案内、資料探索案内、端末機操作案内、
各種申込記入案内、身体障害者や日本語に不慣れな外国人へ図書館
利用支援。
- 2) 対面朗読
視覚障害者のための対面朗読、館内での資料探索支援。
- 3) 利用環境整備
中央図書館及び体育・芸術図書館各階の書架の整理、図書ラベルの
貼り直し、など利用者が使いやすい環境を整える。
- 4) 体育・芸術関係資料の整理
美術展ポスターなどの整理。
- 5) その他
外国人のための日本文化紹介、留学生オリエンテーションの補助、
図書館見学案内。

などです。

上記 1) 図書館総合案内および 3) 利用環境整備のため、図書館ボランティアは毎週、月～金の 5 日間、午前のシフト（10 時～13 時）、午後のシフト（13 時～16 時）に分かれて活動しています。

視覚障害のある方には上記 2) 対面朗読など、訓練されたボランティアによる支援を行っています（予約が必要）。

留学生の皆さん、図書館を利用されるにあたって、わからないことがあれば、ご遠慮なく図書館ボランティアに相談してください。

図書館ボランティアは喜んでお手伝いします。

May, 2006

ON THE LIBRARY VOLUNTEERS

Prepared by Volunteer

The University of Tsukuba has been maintaining its policy to be friendly to the public, and maintain good relationship with the local community. As one of its efforts toward that objective, the University took a lead to adopt a library volunteer system. The system was started on the first of June 1995, which was said to be the first one among the national universities in Japan.

The number of library volunteers is nearly 50 persons. The system is mainly organized with housewives and retired persons who are living in Tsukuba City and its vicinity. They are having a continued interest on life-long learning, and are well experienced in their lives with good common sense.

It is believed that efforts of these volunteers have contributed for maintaining friendly images of the University and good relationship with local community. Furthermore it brought a lot of improved services of the Library as well.

The library volunteers are generally stationed on the 2nd and 4th floor of the Central Library of the University. Their major missions are:

- 1) General Information Service on the Library:
on general information, on document layout information, assist document search, assist PC-terminal operation, assist filling out various application forms, assist handicapped persons and foreign visitors
- 2) Assist Sight -handicapped Persons:
assist document retrieval and readout these for them
- 3) Maintain Library Environment (Shelf Reading):
check arrangement of books on shelves and their "call number tags"
(light maintenance work on books to keep the library environment friendly to users)
- 4) Restore Materials in the Arts and Physical Education Library:
- 5) Others:
introduce Japanese cultures to foreigners, assist library orientations for foreign students, library tour guide

On weekdays, from Monday through Friday, the service of volunteers is done in two shifts, that is, morning shift (10:00 to 13:00) and afternoon shift (13:00 to 16:00).

For sight-handicapped persons, services by specially trained volunteers for the above item 2 is available when requested. (Reservation is needed.)

Whenever any question comes out in your mind, please feel free to contact volunteers at the Volunteer Counter on the 2nd and 4th floor. They are willing to help you.

うたがき

筑波大学附属図書館ボランティア広報紙
第17号

行ってみよう！筑波大学

平成20年9月発行

編集：筑波大学附属図書館ボランティア広報部

発行：筑波大学附属図書館

〒305-8577

茨城県つくば市天王台1-1-1

TEL:029-853-2348（情報管理課）